

<p>〔開会の宣告〕 遠藤教育長</p>	<p>平成31年3月定例教育委員会会議を開会する。</p>
<p>〔会議の成立〕 遠藤教育長</p>	<p>本日は、私の他5人の委員が出席しているので、この会議は成立する。 会議録署名人は、森委員と西山委員とする。</p>
<p>〔公開の審議〕 遠藤教育長 遠藤教育長</p>	<p>本日の会議日程について、議第22号については、「委員・研究員の氏名を公開することにより、率直な意見の交換又は意思決定の中立性が不当に損なわれるおそれがあること」、報告（6）については、「正式公表前の案件」に該当することから、教育委員会会議規則第13条に基づき非公開の審議が適切と考えるが、議第22号及び報告（6）について、非公開に賛成の委員は、挙手をお願いする。 (全員挙手) 全員賛成により、議第22号及び報告（6）については、非公開とする。</p>
<p>日程第1 前回会議録承認</p>	
<p>遠藤教育長 遠藤教育長</p>	<p>2月12日開催の平成31年2月定例教育委員会会議録及び2月15日開催の平成31年第1回臨時教育委員会会議録を承認することに異議があるか。 (異議なしの声) 異議なしと認め、前2回の会議録を承認する。</p>
<p>日程第2 事務局報告</p>	
<p>（1）事業・行事等報告について</p>	
<p>○ 前回会議（H31.2.12）以降の事業・行事報告（主なもの）</p>	
<p>2月15日（金） 18日（月）</p>	<p>第5回校長・園長会 熊本県市町村教育委員大会</p>

	平成31年第1回定例市議会(～3月8日)
20日(水)	教師塾「きらり」閉講式
25日(土)	学校業務改善アドバイザー事業事例報告会
3月 1日(金)	必由館高校・千原台高校卒業式
4日(月)	総合ビジネス専門学校卒業式
9日(月)	市立中学校卒業式
13日(水)	青少年問題協議会
19日(土)	市立幼稚園卒園式
20日(水)	市立小学校卒業式
22日(金)	総合教育会議 修了式・終業式
○ 今後の予定(主なもの)	
4月 8日(月)	市立高等学校、平成さくら支援学校入学式 市立幼稚園、高等学校、平成さくら支援学校、総合ビジネス 専門学校始業式
9日(火)	総合ビジネス専門学校入学式 市立小中学校始業式
10日(水)	市立中学校入学式
11日(木)	市立小学校入学式
12日(金)	市立幼稚園入園式
18日(木)	全国高等学校総合体育大会実行委員会総会
日程第3 議事	
・議第14号 熊本市教育委員会事務局内部組織規則の一部改正について	
《上村 教育政策課長 提出理由説明》	
西山委員	学校改革推進室の任務は、市立高等学校等改革というのは先日の説明で理解したが、市立学校の改革とは具体的にはどのような内容か。統廃合等か。
上村課長	市立学校の範囲は、幼稚園、小学校、中学校、高等学校及びビジネス専門学校である。学校の規模適正化をはじめ、学校改革推進のプロジェクト等についても、学校改革推進室で担うこととしている。
遠藤教育長	働き方改革を含めた学校改革全般ということである。

〔採決〕 【原案どおり承認された】

- ・議第15号 熊本市教育委員会の権限に属する事務の補助執行に関する規則の一部改正について

《上村 教育政策課長 提出理由説明》

〔採決〕 【原案どおり承認された】

- ・議第16号 熊本市教育委員会職員の職の設置に関する規則の一部改正について

《上村 教育政策課長 提出理由説明》

遠藤教育長

教育次長が2人になること及び全市的に副課長の職名に担当する事務を付すことになることに伴う改正並びに給食栄養士の追加ということである。

上村課長

給食栄養士という職が新たにできるため、学校職員の職に追加する。

西山委員

2人の教育次長は、事務を所掌分担するのか。

遠藤教育長

2人の次長で事務を分担することが可能になるということである。教育職の次長と事務職の次長の2人体制になり、事務職の次長に学校改革等を担当させる予定である。

小屋松委員

この規則には、非常に多くの職が定められているが、もう少し簡素化できないのか。

上村課長

今後検討する必要があると考えている。

遠藤教育長

本規則に定められている職のすべてが現に存在するわけではなく、検討の必要性を感じる。

審議員と教育審議員は分ける必要があるのか。

津田部長	<p>以前は、市長部局等においても、審議員は、部局ごとに様々な審議員があったが、それらを審議員に統合したという経緯がある。教育審議員は、その専門性を明らかにするという趣旨で残している教育委員会特有のものである。</p>
遠藤教育長	<p>政策審議員もあるが、どのような職か。</p>
津田部長	<p>政策審議員は、副課長の特命事項となる政策調整を担っていた。現在は存在しないが、復活の可能性があるため規則上は残している。</p>
出川委員	<p>新設の給食栄養士は、現行ではどこの職に属しているのか。</p>
森田課長	<p>給食栄養士は、完全に新規で採用する職である。従来、技師、主任技師等が主に給食の調理を行ってきたが、これらに加えて、栄養士の資格を保有し、かつ、調理も行う職として給食栄養士を31年4月から採用することとした。</p>
出川委員	<p>今までその役割はだれが担っていたのか。</p>
森田課長	<p>従来、献立の作成、衛生管理等は、栄養教諭及び学校栄養職員が行っており、調理は、業務職である給食技師が行っていた。給食栄養士は、その両方を行う職である。</p>
西山委員	<p>栄養教諭がいるにもかかわらず、給食栄養士を置く理由は何か。</p>
森田課長	<p>熊本市においては、数年前から給食調理を行う給食技師等の業務職の採用を行っていないことから、給食調理を担う職員が減少しているため、一般職の給食栄養士を採用することで給食を提供する体制の維持を図ることとした。</p>
西山委員	<p>生徒の食物アレルギー対策は、従来だれが担当しており、今後、だれが担当するのか。</p>
森田課長	<p>来年度、学校現場に配置される給食栄養士は、2人であるため、大半の学校においては、従来アレルギー対応を行っていた</p>

<p>森委員</p> <p>森田課長</p> <p>森委員</p>	<p>者が引き続き行い、給食栄養士が配置される学校については、給食栄養士も同様の業務を行う。</p> <p>給食に関しては、民間委託を進めてきたが、民間委託の推進と給食栄養士の採用計画とはどのような整理か。</p> <p>給食調理を担う者の減少を補うため、550食以上の食数を目安に民間委託を進めることで職員組合と合意し、民間委託を進めてきたが、要件を満たす学校が残り少なくなった。それ以下の食数については、職員組合との合意が取れておらず民間委託を進めるのは難しいが、職員の減少は続くことから、それを補うために一般職の給食栄養士を採用することとした。</p> <p>食数に応じ、民間委託する学校と、市の直営で行う学校とが併存するという理解した。</p>
<p>[採決] 【原案どおり承認された】</p>	
<p>・議第17号 熊本市教育長の職務代理者にかかる事務の委任等に関する規則の一部改正について</p>	
<p>《上村 教育政策課長 提出理由説明》</p>	
<p>[採決] 【原案どおり承認された】</p>	
<p>・議第18号 熊本市教育委員会傍聴人規則の一部改正について</p>	
<p>《上村 教育政策課長 提出理由説明》</p>	
<p>遠藤教育長</p>	<p>従来、傍聴人には、氏名及び住所を記入させていたが、不要な個人情報と判断したため、収集しないこととする。</p>
<p>森委員</p>	<p>傍聴を希望する旨の申出とは、口頭の申出か。</p>
<p>上村課長</p>	<p>利用する機会のない個人情報の収集は廃止し、口頭の申出とした。</p>

小屋松委員

傍聴人から個人情報を書く必要があるのかという申立があったのか。

上村課長

傍聴人からの申立ではない。個人情報の収集は、事務の目的達成に必要な範囲内とすべきとする個人情報保護条例の規定に従い、収集しないこととした。

〔採決〕 **【原案どおり承認された】**

- ・議第19号 熊本市教育センター条例施行規則の一部改正について

《上村 教育政策課長 提出理由説明》

〔採決〕 **【原案どおり承認された】**

- ・議第20号 熊本市立図書館設置条例施行規則及びくまもと森都心プラザ条例施行規則の一部改正について

《坂本 図書館長 提出理由説明》

〔採決〕 **【原案どおり承認された】**

- ・議第21号 熊本市教科用図書選定委員会規則の一部を改正する規則について

《松島 指導課長 提出理由説明》

西山委員

教科用図書選定委員会の委員から教員を削り、校長に限ることとするということだが、特定の教科の校長がいないという事態が発生する可能性はないのか。

松島課長

選定委員会の委員としては、教科は問わず3人の校長に委嘱しているため問題はない。

小屋松委員	研究記録員は、選定委員会の委員の定数である15名の枠外ということか。
松島課長	選定委員会の委員とは全く別のものである。従来、研究員代表の校長が説明を行い、指導主事が補足説明をしていたが、今後は、新設する研究記録員となる指導主事が説明を行い、質問に対する回答を研究員である校長が行うこととする。
遠藤教育長	31年度及び32年度は、教科書採択があるため、体制を整えるということである。

[採決] 【原案どおり承認された】

- ・議第23号 熊本市田原坂西南戦争資料館条例施行規則の一部改正について

《濱田 文化振興課長 提出理由説明》

[採決] 【原案どおり承認された】

日程第4 報告

- ・報告（1）平成31年第1回定例市議会報告について

《全課 報告》

西山委員	市立高校・総合ビジネス専門学校の見直しについてのこれまでの議論においては、経営の視点が欠落しているため、財政面からの検討ができていない。 市の財政面から考えたときに、3校の維持が難しい状況なのか、その点は考慮する必要があるのかは、検討の要素として必要な情報である。
遠藤教育長	必要な情報を揃え、検討する機会を設けたい。
西山委員	市民の税金を使っている以上、財政面の検討は必要であると

	<p>考える。</p>
遠藤教育長	<p>高校改革の議論の発端は、少子化という時代の変化だが、今後の方針を検討する上で財政的な検討は必要である。</p>
出川委員	<p>学校図書館図書標準冊数は、学校ごとに冊数が決まっているのか。</p>
中村課長	<p>学校図書館図書標準は、国が目標として設定した学校の規模に応じた数値であり、これを達成するよう蔵書の整備を進めているところである。</p>
出川委員	<p>学校図書費の予算は、どのようにしてつけられているのか。</p>
中村課長	<p>小学校及び中学校の蔵書整備として、教育委員会から予算を要求し、決定した予算を学校の規模、整備の必要性等を考慮し、教育委員会から各学校に配当し、学校が必要な図書を購入する仕組みである。</p>
西山委員	<p>市立高校・総合ビジネス専門学校の見直しの話に戻るが、現在いる教員をクビにできない以上、継続して雇用することを前提に改革を考える必要があり、そのことは学校改革を検討する上で大きな制約条件になる。</p>
遠藤教育長	<p>極論を言えば、組織が廃止された場合、分限免職ということも制度的には可能だが、そこまでするかという議論はある。 異動や再就職の斡旋等もあり得るかもしれない。</p>
小屋松委員	<p>教員の意識改革も必要である。</p>
松島課長	<p>高校の教員を対象とした研修費用も来年度の予算に計上しており、教員の質の向上も検討していく。 また、商業等の特殊科目を除き、高校の職員は、中学校の免許を併有している者が多い。</p>
遠藤教育長	<p>高校の教員を中学校へ異動させることも可能である。</p>
西山委員	<p>科やコースを新設するとした場合、新規雇用を行うと経費が</p>

	<p>かかる。改革を考える上では、現状の人材でどこまでできるのかという点も考慮しなければ実現は難しい。</p>
遠藤教育長	<p>学校改革を検討するに当たり、最初の段階では、必要な学校、必要な教育について考え、次の段階で異動、新規採用、早期退職の勧奨等人材の調整について考えるという順番がいいのではないか。</p>
西山委員	<p>学校改革の話が挙がっていることにより、各学校の教員に動揺はないか。</p>
松島課長	<p>千原台高校の定員割れは、喫緊の課題だが、学校においては、相当回数の会議を開き、意識向上に努める等前向きに考えていると校長から報告を受けており、不安の要素は、聞こえてきていない状況である。</p>
遠藤教育長	<p>教育委員会が市立高校の改革を始めることにかかわらず、千原台もビジネス専門学校も定員割れという現状に対する改革の必要性を感じているということだろう。当然、教育委員会としても同じ認識である。</p> <p>必由館はどうか。</p>
松島課長	<p>必由館高校については、課題は認識していると思うが、不安要素は特に聞いていない。</p>
西山委員	<p>千原台高校の定員割れは、地理的な不便さが重要な要因の1つだと考える。バイク通学を認める等通学の利便性を高めることで解決できないか。</p>
松島課長	<p>通学方法等の利便性を高めることについては、学校と協議を行った際の話の1つであり、バイク通学の件も俎上には上がった。</p>
遠藤教育長	<p>この2年間で倍率が急落している。立地条件は変わっていないため、地理的な問題がどの程度影響しているかは疑問である。</p>
西山委員	<p>1番の原因は、少子化だと考える。</p>

遠藤教育長	<p>2年間で半減という千原台高校の志願者の減り方は、少子化だけが原因ではなく、人気が落ちているということである。その要素を分析し、改革案を検討していく。</p> <p>高校改革は、時間をかけて考える問題だが、千原台高校に関しては、緊急に対応が必要であり、着手できることから始めていく必要がある。短期的なものの中長期的なものを分けて考える必要がある。</p>
小屋松委員	<p>学校改革においては、最も大事なことは、教員の意識改革である。異動が少ない市立学校の教員は、自校に対する思いが強いため、自らが変えていこうという意識を持ち、変わる可能性に期待したい。</p>
松島課長	<p>千原台高校は、志願者の減少という事実を真摯に受けとめ、校長を中心に職員の中で意見を出し合い、危機感を共有し、生徒指導、授業の改善等、意識を大きく変える取組みについての話し合いを進めていると報告を受けており、教育委員会と共通認識を持っていると考えている。</p>
西山委員	<p>千原台は、熱心ないい先生がいると好印象を持っていたため、意外に感じている。</p>
泉委員	<p>千原台は、商業高校だったときと違い、学校のカラーがあまり見えない。進学なのか別のことなのか、何を目指しているのか漠然としている感じがする。</p>
遠藤教育長	<p>千原台高校という名前からは、どのような学校なのかわからないということは確かにある。</p>
出川委員	<p>熊本商業は、今年とても人気があったようだ。</p>
泉委員	<p>商業は残しておいた方がよかったのかもしれない。</p>
遠藤教育長	<p>商業でいいかという疑問はあるが、学校の特色をわかりやすくという点は、そのとおりだと考える。</p>

- ・報告（2）平成31年度の講座展示会スケジュールについて
- ・報告（3）5月ゴールデンウィークのイベント報告について
- ・報告（4）きらめく大名道具展について

《植木 博物館長 報告》

遠藤教育長

「きらめく！大名道具展」は美術館と同じ名称だが、博物館でも開催しているということは伝わるか。

植木館長

連携企画のため、あえて「きらめく！大名道具展」と同じ名称にし、内容は、テーマに基づいて、博物館の特徴を打ち出していき、美術館と相乗効果を出す展覧会にしたいと考えている。

小屋松委員

通年講座の子ども科学・ものづくり教室は、年間26回程度開催するということだが、学校経由ではなく自主参加ということか。

植木館長

基本的には自主参加である。内容により、事前申込みのものもあれば、その場で参加できるものもある。

平成11年開始と歴史もあり、親子で楽しめる内容であることからリピーターも多い。

泉委員

熊本博物館の略称としてくまはくを定着させていくのか。また、キャラクターはあるのか。

植木館長

熊本博物館の略称をくまはくとし、「しゃちべえ」という名称のキャラクターを作成し、博物館に親しみを持っていただくよう取り組んでいる。

- ・報告（5）2020年度（平成32年度）学校事務職の採用について

《木櫛 教職員課長 報告》

- ・報告（7）平成30年度熊本市学校給食調理等業務委託評価報告書について

	《森田 健康教育課長 報告》
遠藤教育長	評価は、何段階あるのか。
森田課長	良好、標準的、劣るの3段階である。
遠藤教育長	劣るはなかったのか。
森田課長	劣るは、なかった。
遠藤教育長	調理場については、衛生面等子どもが食べる給食という意味では目立った問題はないが、労働環境面については、議会からも熱中症対策等様々な指摘を受けており、問題意識を持ち、改善に取り組む必要があると考えている。
・報告(8)平成30年度体力テスト結果について	
	《森田 健康教育課長 報告》
西山委員	握力が全学年で基準値よりも1キロも低いのはなぜか。
森田課長	握力の低さは、以前から熊本市の課題であり、議論を重ねているが、熊本市ならではの特徴は見当たらず、答えが出せていない。
西山委員	学校に鉄棒等の運動器具は設置してあるのか。
森田課長	小学校、中学校ともに鉄棒等は設置しており、小学校には登り棒も設置している。
遠藤教育長	日常生活で子どもが握力をつけるのはどのような場面か。
森田課長	昔は、雑巾絞り等があったが、今は荷物を持つ程度。

遠藤教育長	熊本市の子どもだけが生まれつき握力が低いということは考え難いが、原因は、生活環境か学校の教育課程か。
泉委員	握力と投力は、同じ上半身の運動であり、胸筋等が鍛えられていない可能性があると考えられるため、鉄棒等の授業の時間数等を調べるのもいいのではないか。
森委員	熊本市は、体力については、全国平均より若干低い傾向にあり、それを部活が下支えしてきた。部活が社会体育に移行し、部活を完全に廃止する学校もある中で、授業を工夫して効率的に行わなければますます体力が低下することが懸念される。
森田課長	体力の向上のため、東京女子大学の協力を受け、体育の授業の改善、休み時間や掃除の時間の過ごし方等の工夫に取り組んでいるところある。
遠藤教育長	授業以外の工夫も必要だが、基本は授業内容の充実であり、仮に体育の授業内容に偏りがあるのであれば、改善する必要がある。掃除等は、あくまでプラスアルファの話である。
森田課長	体育の授業においては、苦手分野を伸ばすため、鉄棒等の割合を増やす等の工夫が必要だと考えている。
遠藤教育長	何か授業の中でできる工夫があるのではないか。
出川委員	小学校1、2年生の体力テストの結果はないのか。
森田課長	学校によっては、1、2年生も体力テストを行っているが、全員への実施及びデータ提出を義務付けているのは3年生以上であるため、1、2年生のデータは持ち合わせていない。
出川委員	体育の授業を楽しくするためには、日頃の生活の中で体を動かしたりスポーツをしたりすることが必要であり、教員が意識してそのような機会を与え、指導をすることが大事である。
日程第5 自由討議	
・テーマ：教育に関するタウンミーティングのあり方について	

遠藤教育長

今月は「教育に関するタウンミーティングのあり方について」をテーマに討議を行う。討議を始めるにあたり、本市の現状等について、事務局から説明をお願いする。

《上村教育政策課長 説明》

（資料）21-1～8

- ・教育委員会では、広く市民等の意見を反映した教育行政を展開するため、平成24年度からタウンミーティングやスクールミーティングを開催している。
- ・スクールミーティングは、平成28年度で終了した。
- ・今年度は、必由館高校において、「市長とドンドン語ろう！」とタイアップをしてタウンミーティングを開催した。
- ・来年度以降も広聴事業は継続する意向であり、実施方法について議論したい。
- ・事務局からは、次の3案を提案する。
- ・資料21-6の案1は、教職員を対象とし、学校へ出向くのではなく公民館の研修室等で意見交換を行うものである。
- ・動員を行わない自由参加とし、意見がある教職員の参加を期待する。
- ・テーマはフリートークとしているが、時間創造プログラム指定取り組み内容等テーマを設定する方法もある。
- ・資料21-7の案2は、中学校の生徒を対象としたものである。
- ・開催校の準備等の協力は必要だが、中学生目線の要望等を直接聞くことができるよい機会になる。
- ・資料21-8の案3は、教員養成課程に在籍する大学生を対象としたものである。
- ・若い世代の教育に関する意見を聴取すること、本市の教員採用試験の受験者数増加につなげることを目的とする。
- ・教員採用試験受験予定者が対象となるため、質問内容等が採用試験に関するものとならないよう配慮する必要がある。
- ・以上の3案に縛られることなく、忌憚のない意見をお願いしたい。

遠藤教育長	<p>来年度からのタウンミーティングの実施方法について、自由に意見を伺いたい。</p> <p>事務局案としては、31年度は、教職員対象、中学生対象又は教員養成課程の大学生対象の3案を提示している。</p>
西山委員	<p>案1の教職員対象はいいと思うが、フリートークとすると、議論が拡散することが懸念される。5回も実施するのであれば、テーマを決め、興味があるテーマのときに参加する形式のほうがいいのではないか。</p>
遠藤教育長	<p>5回というのは、各区1回の計5回を想定していたが、確かにテーマは設定したほうがいいのかもしい。</p>
西山委員	<p>どこに参加してもいいのだろう。</p>
遠藤教育長	<p>どこに参加してもいいため、中心部で実施すればだれもが参加しやすいだろう。</p> <p>教職員対象で自由参加とすると、いつも特定の人しか来ないという可能性もあるが、それ以外の人にも参加の道は開かれているため問題はない。</p>
西山委員	<p>フリートークにした場合、特定の人たちの話したいテーマに引きずられるおそれがあるため、テーマは決めたほうがいい。</p>
小屋松委員	<p>設定したテーマについて市から説明を行い、それを受けて教育委員を進行役にグループ討論を行い、その結果を代表者が発表するという方法であれば皆に発言の機会を与えられる。</p> <p>進行役を務める教育委員は、事前に集まる機会をつくり、すり合わせや意見交換をする機会を持つこととする。</p>
遠藤教育長	<p>グループのファシリテーターを教育委員が務めるということか。</p> <p>1グループ6人として、最大36人程度となり、必要に応じて抽選等を行う。</p>
泉委員	<p>働き方改革について、現場の声を聞きたいと思っけていても、スクールミーティングでは、一般の人の話がなかなか聞けなかった。別の話になるが、各区の一般住民の話を聞くため、まち</p>

出川委員	<p>づくり委員が行っているまちづくり委員会等に参加するのもいいのではないかと考えている。</p> <p>提示された3案の中では、教職員対象がいいと思う。</p> <p>教職員を対象とし、テーマを決め、グループ討論というやり方は、いろいろ意見が出ていいと思う。</p> <p>2案の中学生対象は、直接会って話を聞くのは中学生には負担が大きいため、教育委員会直通の投書箱のようなものを各学校に設置すると子どもの様々な意見が聞けるのではないかと考える。</p>
遠藤教育長	<p>中学生の意見を聞く仕組みを別につくるということか。</p>
出川委員	<p>通常のアンケートとは別に、意見を投書できるものを常に学校に設置すると、教育委員会と子どもの距離が近くなり、学校等のフィルターを通さない意見を聞くことができるようになるかと考える。</p>
遠藤教育長	<p>現状でも、子どもも保護者も教育委員会にいつでも意見を言える体制ではある。</p> <p>市長への手紙、体罰アンケート、心のアンケート等の機会も設けているが、もう少し気軽に投書できるものということか。</p> <p>問題を把握するという意味ではいいかもしれない。</p>
橋爪次長	<p>中学生になると、周りの目を気にしてそのような方法で意見の主張はしないと思う。既に実施している体罰アンケート、いじめアンケートで主張するという事は、相当根づいているため、目安箱的なものを設置することは、子どもたちの意見を聞く手段として効果的とは考え難い。</p>
遠藤教育長	<p>ネット上では、熊本市の学校に関する書き込みが結構あるが、その内容が学校からは上がって来ることは少なく、機会を設けてもあまり意見は集まらない。</p> <p>どのようにすれば意見を言いやすくなるか。目安箱を置いても投書があるかという点、確かに難しいかもしれない。</p>
西山委員	<p>所属する大学では、学期末に授業改善アンケートを実施している。全授業について生徒が採点及び自由記述を記入し、その結果を受け、教員は、改善方法を示すという方法で授業改善の</p>

	<p>取り組みを行っている。</p> <p>自由記述の中には、稀に明らかに問題がある記述があり、そのようなときは、学部長、副学長等が調査を命じ、調査し、改善を図っている。</p>
遠藤教育長	<p>教育委員会に来る意見は、学校の教員や管理職のフィルターを通過していると感じてはいる。学校を通さないルートをつくと教員は嫌がるかもしれないが、あってもいいのではないか。</p>
西山委員	<p>大学と違い、小・中学校の場合は、教員がどのような授業を行っているかは、校長、教頭がある程度把握しているはずなので、そのような制度がなくても指導は行き届くのではないか。</p>
遠藤教育長	<p>校長、教頭の対応に対する保護者からの不満の声は耳にするため、直接教育委員会に意見等を言える窓口を設けるのもいいと思う。</p>
西山委員	<p>教育委員会というのは、保護者にとって相当心理的なハードルが高い。学校相手ではどうしようもないときに、学校を訴えるような感覚で教育委員会に申し出るのだと思う。</p>
遠藤教育長	<p>現状では教育委員会へは教員の処分を求めるような段階で初めて話があるが、もう少し気軽に現状を把握できないかという思いはある。</p>
出川委員	<p>教育委員会へ直接保護者からの相談は、たくさんあるのか。</p>
橋爪次長	<p>教員に言っても何も変わらないということで上へ上へと、文科省まで電話される方もいる。</p>
遠藤教育長	<p>教育委員会が意見を聞く機会があるのは、大半が保護者であり、子どもの意見を聞く機会は、あまりない。</p>
森委員	<p>中学生の子ども一般に意見を聞くというのは、表現力、発言力の問題もあり、かなり難しい。</p> <p>子ども議会のようなやり方がいいのではないか。議会のように市政一般ではなく、学校生活等に絞り、教育委員と意見交換する。</p>

<p>出川委員</p>	<p>保護者を対象とすると、建設的な話より苦情の場になってしまうことが懸念される。実態把握という点では意味はあると思うが、本来考えているものとは方向性が違うと感じる。</p> <p>テーマを設けるのはいいと思う。先ほどの目安箱についても、設定したテーマについて子どもが自由に意見を入れる期間を設けると、意見がある子がいたら入れるかもしれない。</p>
<p>遠藤教育長</p>	<p>会って話をするのではなく、文章で意見を入れる方法であればそれほどハードルは高くはないということか。</p> <p>全部の学校に箱を置くという方法がいいのかという点も含め、何か子どもの意見を聞く方法を事務局で検討してほしい。</p>
<p>森委員</p>	<p>教育委員会に意見を出すことを目的とするのではなく、自分の考えを特定のテーマについてまとめ、文章で表現するという教育の一環として位置づけ、特定の学校を対象とする方法がいいと考える。自由に意見を出させるのでは、意見も出にくく、上手に書けないだろう。教育の一環という面も考えながら上手に引き出すやり方を工夫する必要がある。</p>
<p>遠藤教育長</p>	<p>これまでの議論をまとめると、タウンミーティングの対象は、教職員とし、別途、子どもの意見を集める方法を検討するといということか。</p> <p>タウンミーティングは、ある程度内容を決めておきたい。教職員対象、テーマを決め、グループ討論形式で行うということか。</p>
<p>小屋松委員</p>	<p>参加者数次第だと思う。</p>
<p>森委員</p>	<p>試行的にやってみるしかない。自由参加とするのであれば、各区を回るよりも市内の中心部の参加しやすい場所で行う必要がある。便利の悪さを理由に参加を見送る者が出ては、せっかくの企画がもったいない。</p>
<p>小屋松委員</p>	<p>1回ぐらいは、対象者を教頭に限り、教頭先生と話す会とするのもおもしろいかもしれない。</p>
<p>遠藤教育長</p>	<p>31年度実施であれば、千原台や必由館の教員を対象に、高</p>

小屋松委員

校改革についての当事者の意見聞くのもいいと思う。
教頭対象というのは、どんな意図なのか。

チーム学校の要は、教頭だと思う。学校の調整役である教頭の役割は、非常に重要だと考えるが、当事者にそのような意識がどの程度あるのかということを知りたい。

遠藤教育長

1番激務であり、来る時間があるかという問題はあるかもしれない。

夏休み中等に実施するか。

橋爪次長

時期と時間帯次第だと思う。休みの日であれば問題ない。

西山委員

教科を絞るという考え方もあると思う。

森委員

英語等関心が高いものに絞る等教科ごとという切り口はあるかもしれない。

遠藤教育長

事務局でまとめて具体案をつくり、委員各位に見ていただき、決定することとしたい。

自由討議は以上とする。具体案は、後日、提示をさせていただく。

[非公開の審議]

日程第3

- ・議第22号 熊本市教科用図書選定委員会委員の委嘱等について

《松島 指導課長 提出理由説明》

[採決] 【原案どおり承認された】

日程第4

- ・報告(6) 子どもたちの心のケアについて

《徳永 総合支援課長 報告》

平成31年（2019年）3月 教育委員会会議録（要旨）【3月28日（木）】

<p>〔閉会〕 遠藤教育長</p>	<p>本日の日程は全て終了したので、平成31年3月の定例教育委員会会議を閉会する。</p>
-----------------------	---